

カルガモの成長と巣立ち



(令和3年5月撮影)

愛らしい10羽の雛が生まれました

母校の正面玄関前にある池に毎年カルガモが飛来していて、昨年の春は10羽の雛が生まれました。

雛が大人になるまでには、カラスに襲われたり、排水口で事故にあったりと危険も少なくなく、命を落としてしまうこともあるそうです。

それでも雛たちは親鳥の愛情を受けて健やかに育ち、羽ばたいていく力をここで蓄えて、無事に巣立っていきました。

「コロナの影響で、昨年度に続き学校行事や部活動の大会の中止、臨時休校、リモート授業、分散登校等で不自由な学校生活を強いられました。しかし、困難な状況下でも自立していく力を吉原高校で身に付けて、母校の後輩のみなさんも力強く社会に羽ばたいてほしいと願っています。

嶺朋会報

＝発行日＝
令和4年2月28日
＝発行＝
静岡県立吉原高等学校
同窓会 嶺朋
静岡県富士市今泉2160番地
＝印刷所＝
富士ニュース社
電話 (0545) 52-0551

令和3年度 同窓会嶺朋役員

役職名	氏名	卒年 (昭和)
顧問	松本 玲子	36
相談役	神田富美子	39
名誉会長	福島 由子	校長
参与	平井 剛	副校長
"	芹沢 秀巳	教頭
会長	土屋とき江	48
副会長	宮本 晴美	46
"	齋藤 博子	52
監査	勝又美佐代	49
"	小泉恵津子	49

令和3年度 年代別本部理事

年代	氏名	卒年
30代	荒川 実喜	H21
40代	川崎きく恵	H9
50代	渡井 祐香	S61
60代	加藤 恵子	S48
	関 真弓	S54

令和3年度同窓会嶺朋役員(案)の書面決議により、上記のとおり承認されました。

若き力を 嶺朋へ



嶺朋会長
土屋 とき江

立春が過ぎ、梅のつぼみもふくらみ始める頃となりました。皆様方には、日頃より同窓会嶺朋の事業に一方ならぬご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。一昨年来のコロナ禍による対応で、ご不便やご苦勞をされているかと思えます。今年度も皆様に、お会い出来なかったことを、大変残念に思っております。

令和3年度もコロナウイルス感染防止のため、総会・役員会は、中止させていただきました。高樓祭は、感染防止のため、同窓会は展示のみの参加と

なりました。在校生の皆さんに見ていただき、お褒めの言葉や励ましの言葉を、たくさん頂きました。

今年度は、「本部理事」という役職で、5人の若い力が加わりました。お陰様で、待望のホームページを開設することができました。より多くの同窓生の皆様へ同窓会の今の身近な様子を発信し、お伝えしてまいります。是非、見ていただきたいと思えます。また、令和3年度卒業生に贈るコサージュ作りも協力していただきました。深雪アトフラワーの奥深さを経験していただき、役員の方々の結びつきも深まったのではないかと思います。

また、会則につきましては、解りやすくするために、話し合いの時間を重なるように、同窓会は、これからもずっと応援していきます。

皆様、ご協力をお願い致します。

会員だより

会員のみなさんの活躍



吉高と出版と歌声活動



山藤 惠美子
(昭和42年卒)
主婦

吉高での三年間、私は生徒会誌「高樓(6号〜8号)」の編集に携わりました。発行前の追い込みは徹夜。生活館に泊まった記憶もあります。今思えば貴重な体験でした。

吉高卒業後すぐ結婚。夫の両親との同居、四人の子育てに無我夢中でした。昭和56年、夫が海外勤務となり、四人の子連れで私も革命と戦争のイランに滞在。女性へのイスラムの締めつけのひどさに嘔然。日本の友人知人に「テヘラン便り」と称して手紙を送っていました。二度目は返還直前の香港。子供達を置いて夫婦二人で。ここでの異文化体験も「香港便り」として送りました。

二〇〇〇年、この二つの海外体験を「薔薇のイランから紫荊の香港から」と題して出版しました。それが縁で二

〇〇二年、ロゼシアターで「イスラムの国に身を置いて」と題して富士市民大学の講師を務めました。

私は吉高時代、東京に住む夫と手紙のやりとりをしていました。段ボール一杯に残っており(モンゴメリではありませんが)読んでみると面白いので「シールドラヴェーター(上・下)」として出版。これらの本の出版には吉高時代

かけがえのない今



大川 紀美子
(昭和54年卒)

別部特別支援学校教諭(再任用)
静岡県立岡島支庁

「自分の感受性くらい」茨木のり子という詩があります。その一節に

『駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄』

という文があります。コロナ禍でできないことや我慢が増え、不安、焦燥、悲しみ、様々な感情が溢れています。新型コロナウイルスが全ての生活を奪ってしまい、気持ちのやり場を失い、

の「高樓」の編集が生きました。

二〇〇八年、夫がアコーディオンを始め、私が歌っての歌声活動を始めた。ケアラザ、老人施設でアコの伴奏に合わせて皆で一緒に歌うのです。年に百二十回以上、コロナになるまでやりました。富士市では快明堂で三七回。

私が吉高生の頃、歌声喫茶全盛で、

当たり前であったことの価値や必要性を思い知ることになりました。高校生活も大きく変わり、将来に不安を感じている人も多いことと思います。

しかし、このような状況をただマイナスに捉えて「できない」とあきらめれば何も好転しません。コロナ禍だから仕方ないのではなく、ピンチをチャンスにする気持ちと取り組みをして、自分の今と未来を変えていく気概を持って進んでほしいと期待しています。挑戦できるって素晴らしいことです。

「正しく、強く、明るく」

吉原高校の校訓です。私たちの頃にもありました。卒業して今になってこの言葉の意味を考えます。シンプルですが、とても大切なことと思います。生徒の皆さんもこの言葉を意識してみてください。そして、自分のアイデンティティを理解し、これからどうありたいのかを考えながら歩んでください。今の自分を大切に、周囲の人を大

よく新宿の「灯」で歌いました。その頃からずっと好きだったのです。ずっと繋がっているのです。

在校生の皆様、たった一度の人生です。「今」を大切に悔いのない様生きていって下さい。「今」が、後に来る人生の全てに繋がっているのですよ。皆様の御活躍、心から応援し、祈っています。

紙のまち富士市のために



川口 奈津子
(平成8年卒)
会社役員

切にして、先の見えないコロナ禍でも力を発揮し、かけがえのない高校生活を送って、明るい未来にしてください。

私は富士市の基幹産業の一つである「製紙」を営む家系に生まれ育ち、現在は祖父が昭和五十三年に立ち上げたペーパータオル加工会社の三代目として、日夜奮闘しております。祖父の時代、まだペーパータオルというジャンルは珍しかったのですが、昨今のコロナ禍の影響により、個々の衛生観念の高まりから、不特定多数の方が集まる施設等はもちろんのこと、ご家庭にも

普及してきています。

ペーパータオルの需要が徐々に増え、これからのという時に、社長である父が突然亡くなりました。令和二年十月、朝から冷たい雨が降り続いていて日でした。持病のため検査入院をしていた父が、敗血症性ショックにより心肺停止となり、そのまま他界してしまつたのです。全く引継ぎが無い状態で急に会社を承継することになつた私は、父の死を悲しむ余裕も無く、会社と社員を守るために必死でした。まずは社員とお取引先様を不安にさせないこと。会社の現状を把握し、問題点を洗い出し、改善策を見出しました。一番大事なことは「結果」を出すことです。結果を出さなければ誰からも信用されません。一つ一つ問題点を改善していき、なんとか月次で良い数字を出すことができた時には、父の遺影へ胸を張って報告しました。

今後の「ものづくり」をはじめ、日本経済が先行き不透明の中、牽引役として女性の社会的台頭が囑望されておりますが、紙業界は未だ男性社会です。その中で女性が周りの信頼を得るためには、男性の何倍も努力しなければいけませんし、何事にもぶれない心の強さが必要です。

また微力ですが、常に感謝の気持ちを忘れず、誠心誠意をもって、「紙のまち富士市」を少しでも盛り上げてい

けるよう、今後も更なる努力を続けていきたいと思ひます。

若い時の経験は買ってもせよ!



中村 信哉 (平成31年卒)

富士市消防本部西消防署 救助担当 消防士

「中村！危ない！」怒りと焦りが入り混じつた隊長の声とともに上から降ってきた瓦がヘルメットを掠めた。目の前には黒煙が上がりながら激しく燃える家、溶けたプラスチックと木材の焦げた臭い、遠くから聞こえるサイレンの音、泣きじゃくる子ども達の声が聞こえてくる。今でも忘れられない初めての火災現場だ。吉原高校を卒業してから約半年後の出来事。私は夢を叶え消防士として活動している。

消防が出動するのは火災だけではなく、救急や救助など様々で、どの現場も通常の状況とは異なる。多くの潜在危険要因を内包し、それらが時間経過とともに常に変化し続ける。一つのヒューマンエラーが二次災害に発展する恐れがあるのだ。そのような過酷な環境下で、最も安全な方法かつ迅速で確かな活動が求められる。全ては助けを求める人の為に、日々訓練に励んで

いる。

社会人になって明確になったことがある。それは、失敗なくして成長は無意味なことだ。なぜ失敗をしてしまったのか、その問題に向き合い原因を特定することで、今後同じような失敗を防ぐ方法を的確に見つけることができる。また、自分の弱点の改善に繋がりが、気持ちの整理もできる。肝心なのは失敗を失敗で終わらせないことだ。みなさんには忙しなく過ぎていく日常の中に気持ちを整理する時間があるだろうか。私には、高校一年生の

時から毎日欠かさず行っているルーティーンがある。それは寝る前に日記を書くということだ。その日に思ったことや、部活での失敗、くだらない出来事を思い出して振り返りをし、次の日の目標を立てる。その日を振り返ることで自分自身を俯瞰してみることができ、自分の欠点を見つめなおすことができる。是非とも高校生のうちに、失敗を恐れず、些細なことでもいいから全力で挑戦して欲しい。きつと新しい自分に出会えるだろう。

母校へ「コロナ対応支援金」を贈呈

令和3年9月2日(木)、同窓会から母校吉原高校へ「コロナ対応のための支援金」を贈呈しました。

一昨年度までは主に東海大会や全国大会へ出場する部活動への激励金として支援して参りましたが、昨年度より大会の中止や縮小開催が続いていることから、「コロナ対策で必要となる経費に充ててほしい」という願いを込め、支援金20万円が



土屋同窓会長(右)から福島校長へ手渡された



オリジナルラベルの消毒液

土屋同窓会長から福島校長に贈られました。購入品のひとつである校章入りオリジナルデザインの手指消毒液が校内の各所に設置され、感染防止に役立てられています。

高樓祭「同窓会のお部屋」から

昭和54年卒 小山 和恵
昭和55年卒 高橋 尚子

本年度の「同窓会のお部屋」は、感染防止対策により規模を縮小して展示を行いました。

そのような中、皆様にご覧いただきたい作品からは、熱意と心の豊かさを伺い知る事ができ、多彩な趣味の素晴らしさはどれも目を見張るものばかりでございました。私自身選層を迎え自分の時間を

楽しめる世代となり、諸先輩方を見習い趣味の模索をしていきたいと思えます。

今回は当番学年として搬入・出のみのお手伝いとなりましたが、来年度も「同窓会のお部屋」に伺えるのを楽しみに、心のゆとりを持ちながら日々過ごしてまいります。と思います。
(小山)



当日のアンケートから

- ・「リアルクラフトの作品が一つ一つ細かく、すごリアルだった。」
- ・「アートフラワーの野の花が素晴らしく、感動しました。欲しくなりました。」
- ・「いろいろな技や工夫を見ることができて、楽しかったです。」
- ・「生徒が作品を丁寧に鑑賞している姿が良かった。」

今年度一般公開は叶いませんでしたが、高樓祭が実施できました事、大変嬉しく思いました。昨年度担当予定の昭和54年卒の皆さんと共にお手伝いをさせて頂きました。「同窓会のお部屋」に寄せられた作品は、多岐に渡り素晴らしい作品ばかりでした。当番学年として、それらの作品を観せて頂く事が出来て改めて

同期だより 同期生の近況報告 (昭和40年卒)

同じ学舎で過ごした者として誇り高い気持ちになりました。在校生の皆さんがこの場を訪れ、芸術を観て、心豊かになる時を過ごして頂けた事と思います。来年度は「同窓会のお部屋」に多くの方の笑顔の花が咲く事を切に願っております。
(高橋)

時代を重ねて



昭和40年卒
石川 千弓

初冠雪のニュースが流れる様になり季節の移ろいの早さを知る今日この頃となりました。

高校三年生の時、東京オリンピックが開催され今年二回目の東京での開催を迎えました。時はコロナ禍の最中であったものの、若人達の活躍に感激したものです。身体を鍛え、共に心を研鑽された賜であったことでしょう。

私は、高校三年間、運動部に属し社会に出てから、身体と精神の礎になっ

たと実感します。身体は心の器、常に健やかでありたいものです。又、パラリンピック参加の選手達は、不自由な障害を強い精神力で乗り越え、感動を覚えたのは数多くの人達だったと思います。心と身体が一つになって、一個の人間に成り立つものだと感じました。全てが思い通りにいかないのは、世の常であり、本当に苦しみや、悲しみを体験した者でなければ、分からないことです。

「その悲しみ、辛さを味わった人こそ人に優しくなれ」「寒さに震えた者こそ太陽の暖かさを知る」
そんな年令に到達しました。

富士山の麓で大きく包んでくれた自然や、巡り合った大勢の人達への、未成の感謝のジグソーパズルを組む為に。さあ、今日もスタート!



▲トップページ



▲嶺報会報のページ

こちらのQRコードをスマートフォンか読取機能付き携帯電話で読み取ってアクセスできます。

昨今のコロナ禍の影響もあり、お会いできない旧友がいらっしやったり、久しぶりに眺めたいなど思う懐かしい風景などあつたりしませんか？同窓生の皆様がどこにいてもどんなときでも、吉原高等学校や同窓生を想い合える場所を作りたいという気持ちから、このたび同窓会のホームページを開設致しました。

ホームページでは、同窓会や同窓生の活動を閲覧することができ、毎年紙面にて発行している「嶺朋会報」も最新号から過去の記事まで、遡って読み返すことが出来るように、デジタルデータでの掲載を開始致しました。

今後、少しずつではございますが、行事の様子などを文章や写真で皆様にお伝えできるよう更新を進めて参ります。在校生・同窓生の活動を通して皆様の活力となれば大変嬉しい限りです。是非、同窓会のホームページへ遊びにいらしてください。

文責 荒川実喜（令和3年度年代別本部長事）

同窓会のホームページを開設

ホームページアドレス <https://yohikou-reunion.com/>

仲間の文芸

俳句

鰯雲農事のメモの亡夫の字

昭和21年卒 渡辺 清子

竹林の小路開かや走り蕎麦

昭和22年卒 藤田千代江

とばされしコスモス畑の帽子かな

昭和31年卒 小林 令枝

こんもりと並ぶマム菊峽日和

昭和32年卒 近藤 幸子

山桜を根尾や吉野に追ひし日も

昭和37年卒 金子 里美

梅の実の良い子悪い子ふつうの子

昭和41年卒 杉山 晴子

佐保姫や時を忘るる本に会い

昭和47年卒 牧田 和代

画用紙に戯れねむるつくしんぼ

昭和50年卒 原 郁美

短歌

海岸に沿ひつつ走る車窓より

ふる里の磯の香りふきこむ
昭和26年卒 仁藤ひろ子

ドッコイシヨ気合を入れて立ち上がる
八十四年の命の重さ
昭和31年卒 古館 秀雄

中天に輝く月に手を合はす
コロナ禍の終息切に願ひて
昭和31年卒 松下 孝子

サボテンに薄紅色の大きな花
コロナ禍の日々心癒やさる
昭和31年卒 遠藤 久子

齡ひとつ重ねてあなたの恙なし
共に祝える今日のしあわせ
(友だちの誕生日に)
昭和34年卒 松本 芳子

庭に咲く花の名知らず眺める
心安らぐこのひと時を
昭和37年卒 西川ひさ江

母子草偲ぶ思ひのその先に
色づく春のただ懐かしき
昭和61年卒 牧野 育美

五行歌

黒い夜空の舞台上に
ヒーローの三日月と
ヒロインの金星

彼が広げた腕に
彼女が駆け寄ろうとしている
昭和37年卒 太田富美子

文芸作品(俳句、短歌、五行歌、詩など)を募集しています。
ご応募、お問い合わせは FAX (0545-61-9481) 嶺朋会
長土屋宛てお寄せください。

学校だより

ご挨拶



学校長 福島 由子

四月に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。同窓会の皆さまには、日頃より本校生徒の学びに寄り添いご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて今年度、新型コロナウイルス感染症拡大の中本校は、「教育活動を止めない」を目標に、そのための感染症対策に注力しました。例えば「高樓祭」は、生徒一人ひとりが感染症対策を考え責任ある行動をとることができました。一般公開は行いませんでしたが、生徒は互いの活動を鑑賞するよい機会となりました。

話は変わりますが、赴任してから富士市内の先生方から次のようにお話をいただきました。「市内には吉原高校の卒業生が世代を超えてたくさんいますよ。地域の方々からもよく吉原高校の話題を聞きます。応援されている学校だと感じる人が多いです。」あちらこちらでこのようなお話をいただき、私は一三年の伝統と歴史を傷つけない

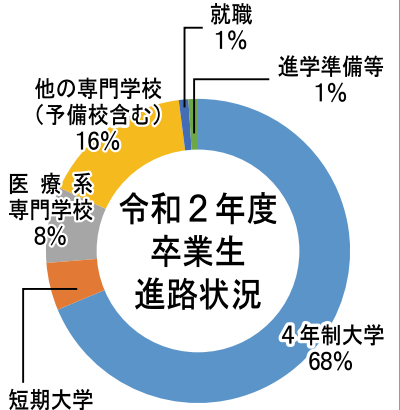


吉原高校 ホームページ

ことなく継承してきた吉高生達の歩みの確かさと心根の良さが想像できました。ここ吉原高校で成長した生徒達は、将来それぞれの良さを活かし、社会で貢献する人となるでしょう。同窓会の皆さま、吉高生の健やかな育ちを、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度卒業生 大学合格者数と専門学校進学先・就職先

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
国公立大学(延40名)					
群馬大学	6	岐阜女子大学	3	相模女子大学	1
山形大学	4	文京学院大学	3	鶴見大学	1
静岡大学	4	東都大学	3	横浜美術大学	1
秋田大学	3	麗澤大学	3	愛知大学	1
新潟大学	2	上智大学	2	愛知淑徳大学	1
北見工業大学	1	明治大学	2	名古屋経済大学	1
福島大学	1	中央大学	2	創価大学	1
茨城大学	1	法政大学	2	桐蔭横浜大学	1
宇都宮大学	1	成蹊大学	2	健康科学大学	1
電気通信大学	1	明治学院大学	2	帝京平成大学	1
信州大学	1	東京農業大学	2	淑徳大学	1
三重大学	1	東京女子大学	2	川村学園女子大学	1
山口大学	1	実践女子大学	2	奈良大学	1
宮崎大学	1	東京経済大学	2	龍谷大学	1
静岡県立大学	3	東海大学	2	共栄大学	1
都留文科大	2	名古屋外国語大学	2	明海大学	1
公立諏訪東京理科大学	2	名城大学	2	愛知東邦大学	1
釧路公立大学	1	関西外国語大学	2	京都女子大学	1
前橋工科大学	1	桜美林大学	2	山梨英和大学	1
長岡造形大学	1	鎌倉女子大学	2	人間環塊大学	1
山梨県立大学	1	愛知学院大学	2	大妻女子大学	1
京都府立大学	1	金沢工業大学	2	聖心女子大学	1
私立大学(延256名)					
常葉大学	79	京都橘大学	2	公立短期大学(延5名)	
神奈川大学	13	浜松学院大学	2	静岡県立農林環境専門学校	1
日本大学	9	近畿大学	2	岐阜市立女子短期大学	1
駒澤大学	8	青山学院大学	1	大月市立大月短期大学	1
順天堂大学	8	国際基督教大学	1	津市立三重短期大学	2
関東学院大学	7	武蔵大学	1	私立短期大学(延9名)	
静岡英和学院大学	7	専修大学	1	日本大学短大部	2
東洋大学	4	東京都市大学	1	常葉大学短大部	5
静岡福祉大学	4	学習院女子大学	1	他多数	
立命館大学	3	共立女子大学	1	看護・医療系専門学校	
神田外語大学	3	昭和女子大学	1	富士市立看護専門学校	
城西国際大学	3	白目大学	1	JA静岡厚生連するが看護専門学校	
国際医療福祉大学	3	武蔵野大学	1	就職	
静岡産業大学	3	中京大学	1	静岡県警察	
静岡理工科大学	3	京都外国語大学	1	富士市消防	
		多摩大学	1		
		東京工科大学	1		



〔詳細は学校ホームページに掲載しています〕



合同発表会での発表の様子

小長井市長や各校教職員らが出席して7月に開催された合同発表会で、前文に入れるべき言葉として、「平等に与えられる権利」、「周りに支えられる権利」、「お互いの権利を尊重し合う」などを提案したほか、条例全般については、「いじめについて触れてほしい」という本校の意見を伝えました。富士市に暮らす子どもたちの健やかな成長につながるよう、それを支える大人たちにも子どもの権利の大切さを訴えかけることができました。

「富士市子どもの権利条例」の策定に参画しました

富士市が今年度中の制定をめざす「子どもの権利条例」の前文の策定に本校から7名の生徒が参画しました。条例の当事者である高校生に意見を聴取するを目的に市内6校の高校生が参画し、本校では昨年5月に市の担当の方から説明を受け、盛り込むべき言葉や表現をまとめてきました。

高樓祭を開催しました

今年度の高樓祭は、6月5日(土)・6日(日)に文化の部、7日(月)に体育の部を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策で生徒・教職員での実施となりましたが、いかに安全に実施するか、生徒たち自身がルールやマナーを考え、行動が制約されたなかでも各展示や発表を楽しむことができました。



書道部によるパフォーマンス



体育の部選手宣誓



新体操部の演舞

「グローバルユース国連大使」に南條桜都さん(国際科2年)が就任

日本青年会議所の「JAPANグローバルユース国連大使育成事業」に参加した国際科2年の南條桜都さんが、約6か月の研修を経て「グローバルユース国連大使」に任命され、昨年10月に本校で任命書授与式が行われました。持続可能な社会の実現に向けたSDGs 17の目標のうち、南條さんは主に、3番「すべての人に健康と福祉を」と10番「人や国の不平等をなくそう」の達成に向けて、特に障がい者スポーツの周知や普及に取り組んでいます。



表敬訪問した生田文科大臣(当時)



本校での任命書授与式

地域での活動は国際貢献につながっています。本校が掲げ

る「グローバル・ハイスクール」に合った活動に期待しています。

部活動の活躍

■剣道部

- 令和2年度県高校新人剣道大会女子団体5位 東海選抜出場
- 令和3年度県高校総体剣道競技個人第5位 東海総体出場
- 11HR遠藤実
- 令和3年度県高校総体剣道競技東部地区大会男女団体優勝

■野球部

- 第103回全国高等学校野球選手権大会静岡大会
- 2回戦 吉原2―12磐田南
- 第74回秋季東海地区高等学校野球静岡県大会東部地区予選
- 1回戦 吉原8―2裾野
- 2回戦 富士宮東3―1吉原
- 敗者復活戦 沼津市立3―6吉原
- 第74回秋季東海地区高等学校野球静岡県大会
- 1回戦 吉原2―8浜松西

コロナに負けない！吉高生の活動紹介

■JRC部と国際科がクリアファイルを作成

JRC部と国際科では、地域貢献活動の一環として、新型コロナウイルス感染症対策のクリアファイルを作成しました。まずJRC部が地域で暮らす外国の方にも感染の恐ろしさを知ってほしいと考え、国際科の生徒に翻訳の協力を依頼し、日本語、英語、中国語、ポルトガル語の4言語で紹介するクリアファイルが完成しました。



作成したクリアファイル

中田教諭の海外協力隊の活動が文科省広報誌で紹介されました

本校国際科長の中田貴之教諭が、JICA(国際協力機構)の現職教員特別参加制度による海外協力隊として、アフリカのマラウイ共和国に2012年度に派遣された際の活動が、文科省の広報誌で紹介されました。現地の教育現場でなければ得られない貴重な経験や知見をもとに、異文化

■総合文化部がシトラスリボン(mamoriふじ)を作成

シトラスリボンプロジェクトは、コロナ禍で生まれた感染者への差別や偏見による被害を防ぐことを目的に愛媛県で始まった運動です。リボンの結び目から繋がる3つの輪は、「地域」「家庭」「職場(学校)」を表し、いつでもどこでも「たぐいま」をおかえり」と言い合えるまちをめざすことを表しています。

総合文化部では、紙つと！プロジェクトの石原さんを講師にお招きし、シトラスリボンの講習を受けました。新型コロナウイルスの終息の願いを込めて部員一丸となり、一生懸命作りました。完成したシトラスリボンは、高樓祭で生徒や教職員に、また8月2日に実施した一日体験入学の日に来校した中学生と保護者のみなさんに配布しました。



シトラスリボン



動画を見ながら制作中

への理解や日本との違いを伝えることで、生徒たちが「豊かさとは何か」を考える授業を実施していることなど、帰国後から現在まで本校でどのように活かされているかについて紹介されています。



現地の放課後児童クラブの様子



支部だより

各支部の活動報告(富士宮支部)

先輩の思いを繋げて



富士宮支部長
土屋 善江

歴代支部長様がそれぞれ二年間を、心をこめて継続して下さり、私も六年間支部長を務めて下さった故鈴木勝江様から声をかけて下さったのを切っ掛けに毎年参加してきました。又支部長経験者三人が、富士宮市地域女性連絡会の先輩でもあり、活動の一つに地域の歴史や伝説を題材とした紙芝居作りもしている関係で総会あとのアトラクションで上演をしています。役員は支部長、副支部長二名、会計、監査二名ずつと顧問の構成で総会参加者は、学年連絡係の方に協力していただいています。地区役員の負担になる会費徴収はやめ総会での会費、食事代で運営しています。ローカル新聞への掲載で情報を発信し新たな会員のほりおこしを考へ又総会への取材にきていただいています。毎年七月第一日曜日にグリーンホテルで開催してきましたがコロナ禍の中止となつてしまいましたが、コロナの中二年中止となつてしまいがたりです。「嶺朋会報」を手紙を添えて五十人に送りました。毎年参加し

て下さった会員も高齢化しお元気でいて下さることを願いつつ会える日を心待ちしています。
母校の更なる発展をお祈りしております。



令和元年度の富士宮支部総会のようす
(岳南朝日新聞社提供)

令和4年度

支部長名簿

支部名	氏名	卒年(昭和)
吉原	太田 素雅	51
今泉	橋爪 恭子	52
伝法	加藤 順子	42
広見	小林 昭子	40
青葉台	佐野 敏江	31
原田	須藤 賀苗	46
須津	増田美津代	39
元吉原	米山てる美	38
吉永第二	木又美恵子	47
富士見台	川島 けい	46
浮島	綾部 明子	41
鷹岡	勝又美枝子	39
富士北	増田 久子	40
富士南	漆畑 典子	39
田子浦	安田 幸子	38
富士川	望月のり子	41
松野	原 郁美	50
富士宮	土屋 善江	41
沼津	齋藤 花枝	47
静岡	岡 宮下 能弘	28

令和4年度 嶺朋総会について

2月上旬時点では本欄記載のとおり予定しておりますが、**感染状況次第では中止とさせていただきます。**

～開催の有無及び開催する場合の詳細が決まり次第、速やかにお知らせいたします～
(同窓会のホームページ <https://yoshikou-reunion.com/> でも発信します)

【通常開催する場合】※感染防止対策を十分講じた上で開催します。

- 日 時:令和4年5月22日(日) 受付開始…午後1時、総会…午後1時半より
- 場 所:富士市文化会館 ロゼシアター小ホール ●会 費:無料

・当番幹事は昭和45年卒と昭和46年卒の皆さんです。

・総会後の懇親会は実施しません。そのため会費は頂かず、お食事のご用意もございません。

お問合せ先:嶺朋事務局(電話080-5134-4480) 担当:関 真弓(S54年卒)
または 嶺朋会長 土屋とき江(電話0545-61-9481)まで。

編集後記

今号より「嶺朋会報」の表紙の題字を、嶺朋副会長兼会報の編集委員で、富士書道連盟の会長を務める宮本晴美(暉篁)さんに揮毫いただき、刷新いたしました。会報の顔とも言える新しい題字のもと、節目の第30号を迎える次号、さらにそれ以降も、あらゆる年代の同窓生の皆様に楽しんでいただける誌面づくりに取り組んでまいります。

最後に、長引く自粛生活で大変な状況の中、原稿執筆にご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

〔題字揮毫者紹介〕



副会長
嶺朋副会長
富士書道連盟
宮本 晴美(暉篁)
(昭和46年卒)

誌面へのご意見・ご感想や、次号の表紙や会員だよりで取り上げてほしい方(芸術や教育、スポーツ分野等で活躍されていた方、現在も活躍中の方等)がいらつしやいましたら、自薦・他薦は問いませんのでぜひご紹介ください。
〔郵送先〕〒417-8545 静岡県富士市今泉2160番地 静岡県立吉原高等学校同窓会事務局宛
※嶺朋ホームページのお問合せ欄でも受け付けています(要メールアドレス)。

【編集委員】綾部明子・太田素雅・
太田真弓・中村祐里子・宮本晴美